

施策番号	0101		
施策名	自然環境とくらしを気遣う環境の保全		
概要	優れた自然環境を後世に伝えていくため、自動車の排ガス対策等、自然環境、生活環境保全に向けた取組、環境問題に対する市民の理解と行動を広げる環境学習を推進する。		
担当局・部室	環境政策局・地球温暖化対策室	共管局・部室	
上位政策	1 環境		
施策に関する主な分野別計画等	京都市環境基本計画2016～2025, 京都市自動車環境対策計画(2011～2020), 京都市地球温暖化対策計画(2011-2020)		

### 施策の評価

#### 1 客観指標評価

指標名	平成30年度	令和元年度	令和2年度評価					
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標のウエイト
1 エコカーの普及台数(台)	a	a	83,854	94,358	96,000	98.3%	a	1.00
2 こどもたちが実践したエコライフの実施向上率(%)	b	b	8.7	8.7	10	87.0%	b	1.00
3 -	-	-	-	-	-	-	-	-
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>客観指標総合評価</b>	<b>a</b>	<b>a</b>					<b>a</b>	

#### 2 市民生活実感評価

設問	平成30年度	令和元年度							令和2年度※
		評価	そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない	有効回答者数	
1 京都の子どもたちは、山紫水明の自然環境をかがえのえないものと実感している。	c	c	71 11.0%	205 31.9%	228 35.5%	81 12.6%	58 9.0%	643	-
2 「きれいな空気、清らかな川、静かなまち」など、よい環境が保たれている。	b	b	108 15.1%	294 41.2%	173 24.3%	91 12.8%	47 6.6%	713	-
3 -	-	-							-
4 -	-	-							-
5 -	-	-							-
<b>市民生活実感調査総合評価</b>	<b>b</b>	<b>b</b>							<b>-</b>

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により調査を一時休止しています。

<総合評価>

平成30	A	令和元	A	令和2	A	施策の目的が十分に達成されている
重み付け	<input checked="" type="checkbox"/> 客観指標	環境の保全のためには、自動車の排ガス対策としてエコカーを選択する市民や事業者が増えることが重要である。また環境学習は、環境に優しい行動が根付くことを目的とした長期的な取組であり、その成果はすぐには市民に実感されにくいことから客観指標に重みを置く。				
	<input type="checkbox"/> 市民の実感					

<原因分析>

客観指標総合評価

- b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。
- c評価以下であり、次の原因が考えられる。

市民生活実感調査総合評価

- b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。
- c評価以下であり、次の原因が考えられる。

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業> (令和元年度又は令和2年度新規事業)

	事業名	事業費の状況(千円)		令和2年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		令和元年度 決算額	令和2年度 予算額		
1					
2					
3					
4					
5					

\*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

・今後も市民や事業者には、カーシェアリングや公共交通機関の利用拡大などの普及啓発を行うとともに、電気自動車等の導入や充電設備の設置促進などにより、電気自動車や低公害・低燃費車等のエコカーへの転換を図っていく。

・環境学習については、身近な生活（食、消費、交通等）や京都の都市特性（山紫水明の豊かな自然環境、自然と共生してきた文化・こころ等）を活かした幅広い取組を促進することで、市民の環境保全に関する理解や意識の向上を図るとともに、環境保全に関する自主的な行動につなげる。

・以上のことにより、市民生活実感の更なる向上を図り、自然環境とくらしを気遣う環境の保全を推進する。また、令和2年度は、「京都市地球温暖化対策条例」の改正及び次期「京都市地球温暖化対策計画」の策定に向け、更なる取組の検討を進めている。

施策名	0101	自然環境とくらしを気遣う環境の保全
-----	------	-------------------

指標名	エコカーの普及台数(台)
-----	--------------

担当課	地球温暖化対策室	連絡先	2 2 2 - 4 5 5 5
-----	----------	-----	-----------------

### 1 指標の説明

EV（電気自動車）、PHV（プラグインハイブリッド自動車）、HV（ハイブリッド自動車）及びCNG（圧縮天然ガス自動車）等の京都市内での普及台数

### 2 指標の意味

環境の保全のためにエコカーの選択、普及状況を示す指標

### 3 算出方法・出典等

算出方法：各種エコカーの台数を加算  
出典：軽乗用車は（一社）全国軽自動車協会連合会及び本市市税事務所納税室納税推進担当、それ以外は（一財）自動車検査登録情報協会の情報による

### 4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	平成29年度	平成30年度		数値	根拠	達成度
数値	83,854	94,358	10,504台増	96,000	令和2年度の数値目標達成のために当年度達成すべき数値	98.3%

	全国順位	中長期目標			根拠
		数値	目標年次	達成度	
数値	-	12万	令和2年度	78.6%	京都市自動車環境対策計画<2011～2020>

備考 算定に用いるデータの収集時期の関係から、平成30年度値が最新となる。

### 5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が  
a：80%以上  
b：60%以上～80%未満  
c：40%以上～60%未満  
d：20%以上～40%未満  
e：20%未満

### 6 基準説明

当該指標については、社会・経済情勢などの影響により、EV・PHVの生産量等が不安定となる場合があり、不確定要素が比較的多いことから、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。

### 7 評価結果

平成30	令和元	令和2
a	a	a

指標名	こどもたちが実践したエコライフの実施向上率（%）
-----	--------------------------

担当課	地球温暖化対策室	連絡先	2 2 2 - 4 5 5 5
-----	----------	-----	-----------------

### 1 指標の説明

家庭部門における温室効果ガス排出量の削減に向け、市内の全ての市立小学校において実施するこどもエコライフチャレンジについて、参加者全ての家庭でのエコライフ取組結果を100点満点で数値化し、取組前と取組後の数値の差異（すなわち改善度）を示している。

### 2 指標の意味

各家庭でのこどもたちのエコライフの取組成果について、取組前の数値から10ポイント向上することを目標としている。

### 3 算出方法・出典等

算出方法：取組後実施度－取組前実施度  
出典：エコライフチェック実施結果より

### 4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	平成30年度	令和元年度		数値	根拠	達成度
数値	8.7	8.7	増減なし	10	取組改善率が10ポイント向上する	87.0%

	全国順位	中長期目標			根拠
		数値	目標年次	達成度	
数値	-	-	-	-	-

備考

### 5 評価基準

最新数値が  
a：10以上  
b：7.5以上～10未満  
c：5以上～7.5未満  
d：0以上～5未満  
e：0未満

### 6 基準説明

毎年、当該事業に参加するこどもたちが変わるため、単年度評価指標を設定。こどもたちのエコライフの取組が、取組前から10ポイント向上することを目指している。

### 7 評価結果

平成30	令和元	令和2
b	b	b